

地方の高等教育機関を取り巻く課題

✓ 人口減少と若年層流出による高等教育需要の縮小

- ・地方では都市圏以上に定員充足・地域定着が構造的に困難
- ・編入学・留学・社会人など、多様な入学経路の再設計が不可避
- ・短大は2年で学生が入れ替わるため、特に地域に定着しづらい

特に北海道・滝川市では

- ・札幌市や首都圏への若年層流出が顕著
- ・中空知地域では滝川市が中心的な都市機能を担っているが、地域全体の人口減少が続いている状況

✓ 地域産業の縮小とエッセンシャルワーカーの不足

- ・中小企業の縮小により、学生の地域内での進路選択が狭まる
- ・保育・福祉・医療など、地域生活を支える人材が全国的に不足

特に北海道・滝川市では

- ・中空知地域の幼保人材の不足に懸念
- ・滝川市は「三次産業のまち」であり、交流人口や関係人口の増加に向けた魅力訴求が鍵

✓ 施設の老朽化や地域資源の活用不足

- ・大学は施設維持費の負担が大きく、単独での整備は困難
- ・地域の限られた資源・資金を効果的に配分する必要

特に北海道・滝川市では

- ・公共施設の老朽化が進んでおり、地域では空き家等対策の必要性も増加。

滝川市 × 國學院短大部 共創まちづくりプラン策定に向けて



まちと学ぶ、まちが育つ 地域共創大学



- 地域住民や企業と短大部の連携を深め、地域課題を教材に学生の実践的な力を涵養
- 学生や教員の活動を通して、地域の魅力向上や発展に貢献
- 滝川市や中空知、渋谷区といった短大部と関わりの深い“地域”と共に歩んでいく

“地域共創大学”に向けた6つの取組テーマ

1 地域資源を最大限に活かした教育の高度化

地域コミュニティや地域企業・自然環境を教材として積極的に活用。地域とともに現実の課題解決に取り組むことにより、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力、リーダーシップを育む。地域との交流拡大や地域文化の理解増進によって、滝川市に愛着をもち、より長期にわたっての関係継続を図る。

2 地域における大学の付加価値の可視化・最大化

地域と短大部が共存するためには、短大部の認知はもちろん、滝川市内に立地することの効果も認知してもらうことが必要。短大部における地域貢献機能を強化するとともに、その活動による効果を可視化・検証するスキームを確立。

3 地域に根差した進学・教育機会の提供

市と短大部が連携して、キャリア教育や探究学習への支援など、市立高校だけでなく、市内小中学校等との連携・接続を強化。

4 國學院本学との互恵的な交流の深化

本学への編入可能性を訴求点として維持・強化しつつ、本学からも学生の逆輸入を図る。実学の場として短大部の立地を活用。

5 人的ネットワークによる認知の拡大

学生やOB・OGを起点とした滝川市の魅力発信を強化。親族や友人を含む人的交流が広がるよう、市や地域も連携支援。

6 広域連携による人材育成拠点の形成

幼保人材の育成・確保を中空知地域一丸となって進めるための拠点を短大部に形成。より広域から学生を集めるための支援を共同で拡充。